編集委員会便り

昨年末の編集実行委員会（62，12，22）で本コラムの設置が決まり，執筆は毎号の特集企画立案者が担当とのことで，その第１号に指名された．

例年，年末の委員会は終了後に忘年会を兼ねた懇親会が開かれるため，気ぜわしい思いのする時期であるにも拘らず委員の出席率は極めて高く，今年もその例に洩れない．

林委員長の座長でまず諸報告のあと，主に63年７月号（通巻50号記念号）の特集“エネルギー・資源の現状と将来”の内容のつめ作業が委員諸氏との討議の中で進められた．それに続いて64年１月号までの特集予定の概要説明が担当委員からあり，９月号のテーマ決定（遺伝資源の収集，保存，利用）と11月号の企画担当者の取り決め等が行われた．

今月号の特集記事については，既に61年12月の委員会で提言があった．NEDO事業の展開は，エネルギーに携わる人々にとって関心が高いにも拘らず，これまでまとまった紹介記事がないとの事である．官庁関連の担当はこちらにと何となく決っているようでもあり，編集委員会の意向を受けて企画立案の作業を開始した．

とりあえず，NEDOのＯＢに配布されてくるNEDOニュース（毎月発行）を参考にして，大体のアウトラインをつかんでは見たものの，執筆者等の具体的な選定が難かしく，結局は松岡理事長に文書で推薦方を依頼した２月にＯＫの返事があり，４月に企画部より原案が送られて来た．早速編集委員会にはかった所，NEDO事業の概要紹介記事を追加することですんなりとまとまり，今月発行の運びとなった．立案から発行までほぼ１年を要しているが，テーマ及び執筆者は殆んど変っていない．あっせんの依頼から原案送付までの間，素早く対応して呉れたNEDO企画部の配慮には深く感謝している．今後は新エネ，省エネのみならず超電導，海洋バイオ等，産業技術政策の新たな展開に伴う進展も合わせ，強い期待と関心を寄せて行きたい．

17：30より開始予定の懇親会は，委員会が長引いたため少し遅れて京町堀の「宇津房」で始まった．和室に魚の鍋物がセットされ，日頃堅いつき合いに終始している各委員方もホッとくだけた表情を見せる．

研究会の上野事務長の気配りは抜群で，全員に洩れなく歌唱の指名がかかり，雰囲気はいやが上にも盛り上る．順々に繰り拡げられるカラオケ熱演をバックにして，各所で賑やかな談論が風発し，ムードは上々である．

忘年会のカラオケで思い出すのは，６月にご病気で他界された元編集実行委員長の佐藤俊先生の熱唱である．あの“北酒場”本当に素敵だったナと，なつかしく思い出しながら……編集委員一同，先生のご冥福を切にお祈りしております．

最後は、かって京大ボート部に在籍しておられた鈴木教授が情感込めて歌う“びわ湖周航の歌”の唱和で，62年最後の編集実行委員会・懇親会を終えた．外は穏やかな冬空が拡がっていた．

石　井　英　一
大阪工業技術試験所
機能応用化学部　水素化学研究室長